

大竹市立小方学園 学校図書館

小方学園は、大竹市内にあった小方小学校と小方中学校が2013（平成25）年に統合され、小中一貫校の小方学園になりました。

小方学園の図書室は、小学生向けの本と、中学生向けの本が豊富に揃っており、小学生と中学生が読書を通じて交流できる場のひとつにもなっています。



1. 朝読書・朝の読み聞かせの推進

【小学生】児童が落ち着いて一日の学習に向かえるよう、朝読書を推進するとともに、定期的に教職員や図書委員、図書ボランティアたちによる「朝の読み聞かせ」も継続して取り組んでいます。読み聞かせを通して、言葉を知り、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにすることを目指しています。



小学生・朝の読み聞かせ風景



【中学生】各クラスの図書委員が自分たちのクラスでそれぞれ「朝の読み聞かせ」を行っています。

中学生・朝の読み聞かせ風景



2. 地域ボランティアによる読み聞かせ・おはなし会



地域の読み聞かせボランティア「えほんの国」の皆さまにご協力いただき、定期的に小学生を対象に「おはなし会」を実施しています。季節や行事に合わせた絵本や物語の読み聞かせを通して、児童たちが言葉の豊かさや物語の世界に触れるステキな機会となっています。

紹介された本をまとめた特集コーナーを設置し、貸出しもできるようにしています。



小学生・地域の読み聞かせボランティア「えほんの国」おはなし会の風景



手作りの作品は圧巻です！



児童の興味をそそる仕掛け絵本♪



紙芝居で季節のお話を♪



傍らにろうそくを灯しながら



3. 子ども司書の育成と活動

広島県教育委員会が進めている『子ども司書』。今年度も小学生から新たに3名の子ども司書が誕生しました。図書室の整理や配架、紹介カードづくり、くつろいで読書ができる人気スペースの飾りつけなど、図書室運営の中心となって活躍しています。

下学年への読み聞かせも行うなどして、児童同士の読書交流にもつながっています。



4. 図書室を楽しく飾りつけ



読書活動推進員と子ども司書を中心に、季節やテーマに合わせたPOPづくりや飾りつけを行っています。みんなのアイデアを生かしたカラフルな展示により、図書室が「行くたびに変化がある場所」「季節を感じられる場所」として楽しい空間になっています。

テーマごとの特集コーナーも常に替えながら設置し、POPを見て本を手にする児童（生徒）も増えています。小学生も中学生もわくわくした気持ちで図書室を利用し、本に親しむことができるように様々な取組を心がけています。



5. 教職員や図書委員会のおすすめ本コーナーの設置



教職員や図書委員たちが選んだ「おすすめ本」を紹介するコーナーを図書室に展示しています。紹介カードには本の魅力や読みどころを記入し、児童が新しい本と出会うきっかけになっています。普段は選ばないジャンルの本に挑戦する児童も増え、教職員と児童の間で本の話が生まれ、温かいコミュニケーションも生まれています。展示された本は貸出しができるようにし、読書の幅を広げる取組として好評です。



イラスト付きでわかりやすく紹介POPを作成



中学生

月に一度『読書通信』という、図書委員会から発行される便りを作っています。図書委員おすすめ本の紹介や中学校教職員のおすすめ本を紹介したり、図書室クイズなどを載せたりと、生徒に図書への関心を持ってもらう取組をしています。

「本のショーウィンドウ」という、おすすめ本の紹介POPを中学生全員が作成し、毎年、学園祭時に全生徒の紹介POPを図書室内に展示しています。その中から優秀作品が選出され、優秀作品に選ばれたPOPは図書室前に展示されます。



中学生



6. 多読者への「特製しおり」プレゼント

毎月10冊以上の本を借りて、きちんと読んだ児童には、読書活動推進員と図書ボランティアが手作りした「特製しおり」をプレゼントしています。

努力が認められて、達成感を味わうことで読書意欲が高まり、積極的に読書に取り組む児童たちが増えています。「今度のしおりは何だろう!」と、しおりGETを楽しみに頑張る姿は微笑ましいです。昼休憩の図書室利用も活発になっています。

毎年お正月明けには、みんなが楽しみにしている、おみくじしおりを引いてもらっています♪



中吉と大吉でたよ♪



ミャクミャクしおりも大人気でした!

季節のしおりも毎回変えて♪



7. 国語の授業との連携、学年別「読書チャレンジ」実施

国語の教科書に掲載されている『各学年で読んでほしい本』を、図書室の棚にズラリと配置。その中から「読書チャレンジ」として、こちらで決めた冊数をすべて読んだ児童には「メダルしおり」をプレゼントしています。

目標を持って読書に取り組む児童が増え、普段は選ばないジャンルにも挑戦する姿が見られるなど、読書の幅が広がっています。



達成した児童には、メダルしおりをプレゼント。

今後も図書室で様々な取組を通して、子どもたちが本と親しみ、読書を楽しむ環境づくりに励んでいきたいと思っています。

1 先生・ボランティアさんによる朝読の時間

本校では、子どもたちが読書に親しみ、落ち着いて一日の学習に向かえるよう、毎朝の「朝読書」に継続して取り組んでいる。日程を組み、全学級が読書を生活の一部として定着させることを目指している。

● 具体的な実施内容

- ・ 読み聞かせの日程を組み、該当クラスは授業開始前の10分間に実施。
- ・ 前もって季節や行事に沿った絵本を選書。
- ・ 図書室では、朝読書に適した短編や読みやすい本を特設コーナーにまとめ、選書を支援。
- ・ 図書委員会が「おすすめ本紹介カード」を作成し、図書室内に掲示して読書意欲を高めている。
- ・ 教職員も同じ時間に読書を行い、読書活動のモデルとなるよう努めている。

● 成果

- ・ 朝の時間が落ち着き、学習への集中が高まった。
- ・ 読書冊数が増え、読書習慣が定着しつつある。
- ・ 図書室の利用が活発になり、休み時間に本を借りる児童・生徒が増加した。
- ・ 学級内で本の話題が自然に生まれ、読書を通じたコミュニケーションが広がった。

● 今後の課題と展望

- ・ 低学年向けの読みやすい本の充実を図る必要がある。
- ・ 読書が苦手な児童・生徒への個別支援をさらに工夫したい。
- ・ 図書室と学級が連携し、季節や行事に合わせたテーマ読書を展開していく。
- ・ ICTを活用した読書紹介や、図書委員会による発信活動を強化し、読書文化をさらに広げたい。

2 地域ボランティアによる読み聞かせ・おはなし会

本校では、地域の読み聞かせボランティアの皆様にご協力いただき、定期的に「おはなし会」を実施している。子どもたちが物語の世界に浸り、言葉の豊かさや表現の面白さに触れる機会として、学校図書館と地域が連携した特色ある活動となっている。

● 実施内容

- ・ 学年ごとに時間を設定し、図書室または教室で読み聞かせを実施。
- ・ ボランティアの方々が季節や行事に合わせて絵本や物語を選書。
- ・ 読み聞かせ後には、子どもたちが感想を伝えたり、本に関する質問をしたりする交流の時間を設けている。
- ・ 図書室では、おはなし会で紹介された本をまとめた「特集コーナー」を設置し、読書への広がり支援。

● 成果

- ・ 子どもたちが物語に引き込まれ、読書への興味・関心が高まった。
- ・ 読み聞かせをきっかけに、紹介された本を借りる児童が増加。
- ・ 地域の方々と子どもたちの温かい交流が生まれ、学校への親しみが深まった。
- ・ 言葉の響きや表現の豊かさに触れることで、語彙力や想像力の育成にもつながっている。

● 今後の展望

- ・ ボランティアの方々と連携し、学年に応じたテーマ性のある読み聞かせをさらに充実させたい。
- ・ おはなし会と図書委員会活動を結びつけ、児童自身が本を紹介する機会も広げていく。
- ・ 保護者にも活動を紹介し、家庭読書への広がりを図る。

3 こども司書の育成と活動

本校では、読書活動のリーダーとして「こども司書」の育成に取り組んでいる。今年度も新たに3名のこども司書が誕生し、図書室の運営や読書活動の推進に大きく貢献してくれました。

● 活動内容

- 「えほんの森」という新しく作った、くつろいで読書ができる部屋の飾り付け。
- 図書室の本の整理や返却本の配架を担当。
- 新刊やおすすめ本の紹介カードを作成し、図書室内に掲示。
- 昼休憩に低学年対象とした絵本の読み聞かせを実施。
- 図書委員会と連携し、読書週間のイベント企画にも参加。
- 新しい本のブックコートにチャレンジ！（読書活動推進員がサポート）

● 成果

- 子どもたち自身が図書室を支える意識が高まり、主体的な活動が広がった。
- こども司書の働きかけにより、図書室の利用がさらに活発になった。
- より図書室が華やかで楽しい、居心地の良い空間になった。
- 下学年の児童が図書室に親しみを持ち、読書へのハードルが下がった。
- 仲間に紹介したい本を探すなど、読書への意欲が自然と高まった。

● 今後の展望

- こども司書の活動をさらに広げ、学年を超えた読書交流を促したい。
- 図書委員会との協働を深め、学校全体の読書文化づくりに寄与していく。
- 活動の様子を掲示や学校だよりで発信し、さらに子どもたちの読書意欲を高めたい。

4 先生や図書委員、図書ボランティアのおすすめ本コーナーの設置

児童・生徒が新しい本と出会うきっかけを広げるために、「先生のおすすめ本コーナー」を図書室内に設置している。教職員が自ら選んだお気に入りの一冊を紹介することで、子どもたちが本に親しみ、読書への興味を高めることをねらいとしている。

● 実施内容

- ・ 教職員が「おすすめ本紹介カード」に、選んだ本の魅力や読みどころを記入。
- ・ 図書室内に専用棚を設け、紹介カードとともに本を展示。
- ・ 展示された本は貸出しができるようにし、読書の広がりにつなげている。

● 成果

- ・ 「先生が読んでいる本」に興味を持つ児童が増え、自然と本を手取る姿が見られるようになった。
- ・ 普段は選ばないジャンルの本に挑戦する児童が増え、読書の幅が広がった。
- ・ 教職員と児童の間で本の話柄が生まれ、温かいコミュニケーションが育まれた。

● 今後の展望

- ・ 保護者のおすすめ本も紹介し、展示を広げたい。
- ・ こども司書と協力し、紹介カードをより見やすく工夫するなど、展示の質を高めていく。
- ・ おすすめ本を紹介するミニイベントや読み聞かせと連動させ、さらに盛り上げたい。

5 図書室を彩る楽しいPOPづくりと飾りつけ

子どもたちが図書室に親しみを持ち、自然と足を運びたくなるよう、季節やテーマに合わせたPOPづくりや飾りつけを行っている。日本の四季や伝統ある行事を大切にする気持ちを、一年間を通して図書室からも感じてもらいたい。図書委員会やこども司書を中心に、児童のアイデアを生かした工夫が図書室全体に広がっている。

● 実施内容

- ・ 新刊やおすすめ本に、児童が手書きで作成したカラフルなPOPを添えて紹介。
- ・ 季節の行事（七夕、読書週間、クリスマスなど）に合わせて、図書室内を飾りつけ。
- ・ テーマごとの特集コーナーを設置し、関連する本をまとめて展示。
- ・ 教職員や地域ボランティアの方々のアイデアも取り入れ、図書室全体を明るく楽しい空間にしている。

● 成果

- ・ 図書室の雰囲気明るくなり、児童が気軽に立ち寄るようになった。
- ・ POPを見て本を手取る児童が増え、今まで読んだことのないジャンルにも興味を持ってもらえるようになった。
- ・ 季節感のある飾りつけにより、図書室が「行くたびに変化がある場所」として魅力を高めている。

6 学年別「読書チャレンジ」の実施

本校では、国語の教科書に掲載されている「各学年で読んでほしい本」をリスト化し、読書意欲を高める取組として「読書チャレンジ」を実施している。児童が自分のペースで読書を進め、すべての本を読み終えた際には達成を称えて「メダルしおり」をプレゼントしている。

● 実施内容

- ・ 国語教科書に掲載されている推薦図書を学年ごとにリストアップ。
- ・ 図書室内に「読書チャレンジコーナー」を設置し、対象図書をまとめて展示。
- ・ 読んだ本にチェックを入れながら進められる「チャレンジカード」を配布。
- ・ 全ての本を読み終えた児童には、図書室オリジナルの「メダルしおり」を贈呈。

● 成果

- ・ 目標を持って読書に取り組む児童が増え、読書習慣の定着につながっている。
- ・ 普段は手に取らないジャンルの本にも挑戦する姿が見られ、読書の幅が広がった。
- ・ 達成した児童が誇らしげにメダルしおりを見せ合うなど、読書を通して達成感がある。

7 多読者への「特製しおり」プレゼント

本校では、読書習慣の定着と多読を促すため、毎月10冊以上の本を借りて読んだ児童に、読書活動推進員と地域ボランティアの方々が手作りした「特製しおり」をプレゼントしている。努力を認め、読書への意欲をさらに高めることを目的とした取組である。

● 実施内容

- ・ 図書室の貸出記録をもとに、毎月の多読者を確認。
- ・ 読書活動推進員とボランティアが協力して、季節感のある手作りしおりを制作。
- ・ 10冊以上読んだ児童に、図書室または学級でしおりを贈呈。
- ・ 図書室掲示板に「多読者名簿」を掲示し、達成者を紹介して読書意欲を高めている。
- ・ 毎年1月には、大好評の「おみくじしおり」を全校生徒に引いてもらっている。